

はせさんず

2010 冬号 NO.52

ニュース

2010年11月17日(水)発行
 NPO法人たすけあい大田はせさんず
 理事長 坂口 郁子
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず(会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーステーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元氣かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620

幸福づくり考 in おおた
 心豊かな地域社会をめざして
 10月9日(土) 大田区民プラザ



**11月6・7日 平和の森公園
 OTAふれあいフェスタ
 フリーマーケット**

今年も会員や利用者からたくさんの品物の寄付があり、また値付け作業や売り子として多くの人が手伝いに集まりました。

天気にも恵まれ当日は大繁盛。2日間で504,000円の売り上げがありました。たすけあい活動の大切な資金といたします。

ご協力いただいた皆様ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

はせさんずは15周年を記念し、公益財団法人さわやか福祉財団主催のフォーラム「幸福づくり考」を大田区に誘致して、地域のふれあい、地域での生きがいテーマにした「幸福づくり考」をおおたで開催しました。当日は雨天にもかかわらず320名が参加。

今回は、たすけあい活動のNPO、町会・自治会の実践者、地元自治体の長と、これまで新しい組み合わせを企画しました。大都市東京で孤立しがちな高齢者がどのように居場所を見つけるか、地域での生活を豊かにすることができるかを、それぞれの立場から報告し、地域全体で考えようとしたものです。

第1部「おおたふれあいトーク」は、松原忠義大田区長、中島寿美大田区自治会連合会会長、坂口郁子はせさんず理事長、落語家の三遊亭竜楽さんに、福祉ジャーナリストの



村田幸子さんをコーディネーターに加えた5人。村田さんが最近の福祉事情を簡潔に紹介しトークに移りました。

長年地区の行事や町会の活動をしている中島さんから、町会役員も若い人が入らず高齢化を実感している、地域によって自治会への加入率に差がある、集合住宅の居住者は地域への関心が薄いので呼びかけに苦労するなどの話がありました。はせさんずの坂口

は、NPO活動の意義を報告し、たすけあい活動や介護保険事業の利用者のなかに、独居や高齢者ふたり所帯が多く、支援を続けている現状を説明しました。松原区長は、大田区は少子化・高齢化が進んで

はせさんずヘルパーステーションでは、大田区と「移動支援事業」の協定を結び、ひとりでは屋外での移動が困難な障害者に対して、移動支援サービスを提供しています。障害者の地域での自立生活や社会参加を支援するものです。知的障害のある児童や生徒の自宅から学校への往復や、放課後を過ごす学童クラブへの送り迎えの手伝いも多く、プールや体操教室へ参加するときや、映画館や音楽会へ行くなど休



**移動支援サービス
 充実に向けて**

障害児自身の成長につながることを考えられます。また、介護している家族の負担軽減も期待できます。



いる、羽田空港国際線開設に伴う国際都市構想や多文化共生など、多様化する状況を話されました。竜楽さんから江戸の街は思いのほかたすけあい社会だったという話もあり、村田さんの適切な質問が入って、話は広がっていききました。

アンケートでも「いろいろな活動が行われている大田区の現状がわかって大変よかった」と好評でした。

第2部は三遊亭竜楽さんの「茶碗」を楽しみました。

NPOや町会から実行委員や運営ボランティアが多数参加。大田区高齢事業課、大田区社会福祉協議会も協力、区民と行政の連携で実施された今回のフォーラム。同じ地域のなかでそれぞれが得意技を出し合い、情報を共有し、知恵を出し合って、弱者が安心できる、つながりのある社会を作り出していくきっかけになればと願っています。

このサービスは介護福祉士や2級ホームヘルパーだけでなく、視覚障害者外出介護や知的障害者外出介護の研修修了者も活動できます。外出介護研修は短期間で修了できるので、このような地域に密着したサービス提供者の育成に適した研修として受講を推奨すると同時に、外出介護中の緊急対応など事業所の体制も整備していきます。

障害児とのふれあいを始めたいと願う新しい波が広がっています。

『市民後見人養成講座』を開催

はせさんずが利用している認知症高齢者や障害者、単身高齢者のなかにも、成年後見が必要でありながらこの制度を未だ利用していない人が多く、むしろこうした制度があることを知らない、自分の意思表示が明確にできない人たちが、お金の管理や暮らしを支えるためには代行者が必要です。

現在は後見人の70%が家族です。これからは市民後見人が活躍しないと家族や専門職後見人だけではとても足りません。みんな支え合う地域社会にするために、市民後見人とは何かを知り、活動につなげてもらうために講座を開催します。安心して生活できること、後見人と話し合えて孤独ではなくなること、公的な保障があることは市民後見人制度のすばらしさです。

誰かの支えになりたい、制度について勉強したい、と考えている参加者を募ります。申し込みは11月20日まで。参加費は5000円です。

ヘルパー研修会

高齢者の陥りやすい病気と対策

10月22日(金)池上会館にてヘルパー研修会を開催。今回は講師に、学校法人細谷学園日商簿記三鷹福祉専門学校の曾根絢子先生を迎え、介護の基本となる話を高齢者の病気に関する側面から聞きました。参加者30名。

再確認しました。利用者の様子がいつもと違うと感じたら、体温や呼吸などのバイタルチェックをしたり、本人の様子を聞いてたりして、サービス提供責任者に連絡することが、大きな病気を未然に防ぐことにもなります。今回の研修で学んだことを役立てたいと思います。最後は、身体のしくみを知ってヘルパーも健康を維持するための注意点や、腰痛を予防する体操を習うなど有意義な研修会でした。



曾根先生は、まず人の身体のしくみを十分に理解することが大切であると強調。身体をつくっている器官を頭から足先まで順に、大変分りやすく解説しながら、各器官の関連や老化、そこに発症する病気の特徴について講義されました。

移送サービス活動日誌

移送サービスのボランティア活動を始めて4年。福祉車両や自家用車を使って、利用会員を病院や施設、学校などへ送迎する、身体に不自由をおぼえる人が気兼ねなく安心して外出できるようお手伝いするのが活動の目的です。事前に地図を確認するのはもちろん、下見することもあります。特に心掛けていることは、明るく元気に挨拶をして、利用者のその日の体調を聞きつつ近況も尋ねるようにしていることです。車の安全運転は大前提ですが、なかでも発車、停車を「滑らか」に

最近、移送サービスが必要とする人はもつといるのに、はせさんずのサービスを知らないのではないかと、もつと自宅迎えと病院迎えを間違える失敗に慌てたこともありましたが、いつも笑顔で安全運転をモットーに、今日もガンパリです。



11月10日に恒例のピアノコンサートを区民プラザで開催しました。今年「元気かい」は、10周年になります。高齢者が閉じこもりや寝たきりにならず、生涯を楽しく過ごすことを念願し、「人とのふれ合いと生きがい」を大事にした介護予防の活動を続けてきました。コンサートは、祖父にあたる利用者をはせさんずで介護したご縁で、ウインでピアノを学ばれた長松谷幸生さんに演奏をお願いしています。今回は幸生さんの発案で、ヴァイオリンの気賀栄さんとのデュオコンサートが実現。華麗なる大演舞曲から始まり、デュオはウインの街を連想させるワルツやマズルカ、軽快で情

事務局だより
新スタッフ
10月1日からデイホームに加藤由美子さんが生活相談員兼介護職員として、11月1日から風間孝之さんが介護職員として入りました。



2011年版
カレンダー発売中!
一部700円

■退職スタッフ
ヘルパーステーションの事務職、黒田久美子さんが9月末日で、デイホームの介護職、北原美佐子さんが10月16日で退職しました。

■忘年会(年末懇親会)
12月16日(木)、池上会館で、恒例の忘年会を開催します。

■年末年始の休業日
12月30日～1月3日まで

元気かい デュオコンサート

熱的なチャールダーシユなど。曲目を紹介される幸生さんの洒落なトーク、気の合ったデュオの力強い演奏に感銘の深いリサイタルでした。小学校の音楽室を借りて始めた頃は高音部の音が外れてしまうピアノでしたが、幸生さんは「趣のあるピアノ」と表現され、その人柄のおかげで10年記念コンサートまで続いたのでしよう。スタート当時の思い浮かべて昔日の感があります。入場者73人。(中谷)



はせさんず各部門スタッフより 聞いて! 聴いて!

<p>会員制たすけあい活動 「幸福づくり考inおた」の実行委員は、はせさんずのスタッフを交えて16名。実施当日も所属団体の関係者や知人・友人に声をかけ、40名以上の運営スタッフが動きました。町会・自治会とNPOが手を組んだイベントらしく、会場では各団体紹介の展示や物品販売も行いました。また、当日スタッフの弁当はサポートばんがきん製。大きなイベントはこのような協力なしには実施できないと感じました。感謝! (佐藤悟)</p>	<p>ヘルパーステーション 常勤ヘルパーとして入職、12月で1年。介護保険サービスのほか移動支援の活動を幅を拡大中。移動支援には介護とは違ったスキルが必須、毎日が新鮮で利用者から学ぶことも多々あり、とてもやりがいを感じます。入浴介助で着用する、私の派手(?)な水着を見て利用者との楽しい会話が始まったことも! 今後も男性ならではの能力をフル活用、利用者が安心して快適だと思えるサービスを心掛けます。(山田雅也)</p>	<p>ケアサポート 一病息災といわれるが、介護を受ける高齢者と医療は切り離せない。特に全身チェックからリハビリ、在宅での看取りまで身近なところで医療の手をさしおのべてくれる訪問看護師は、在宅での高齢者にとって命と心のよりどころとなる。医療だけでは在宅での生活は難しく、介護だけでもまた、しかり。在宅での命の管理に、看護と介護、医療と福祉の橋渡し役として、今以上に力を尽くしていこうと思う。(牧野晴美)</p>	<p>デイホーム 11月に入り、日毎に寒くなり、同時にインフルエンザの季節も来ます。感染しないように十分に注意! 外出から戻ったら手洗い・うがいを必ず行いましょう。38℃以上の高熱が出たら、解熱剤など使用せず早めに受診し検査を! 陽性でも早めに治療すれば軽症ですむことが多いです。また、ほかの人に感染させないためにも医師の指示があるまで外出は控えてください。スタッフは予防接種を受けました。(樋口公子)</p>	<p>元気かい 10月13日ちよっぴり曇天のなか、大井中央海浜公園にあるせせらぎの森に総勢22名で出かけ散策してきました。リーダーの古屋先生と草笛名人の風間先生の指導のもと、どんぐり笛を製作し、幼児さんながらピーピー吹き鳴らした人も数人いました。埋め立てられて30年以上たった土地なので、けっこう自然林状態になっています。小さな森林浴を楽しんだ、てなごころでしょうか。高低差も少なく楽な散策でした。(井元一彦)</p>
---	--	---	--	--